特集 まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。今月は、「住みたい上毛町推進プロジェクト」の現場からお届けします。

住みたい上毛町推進プロジェクト

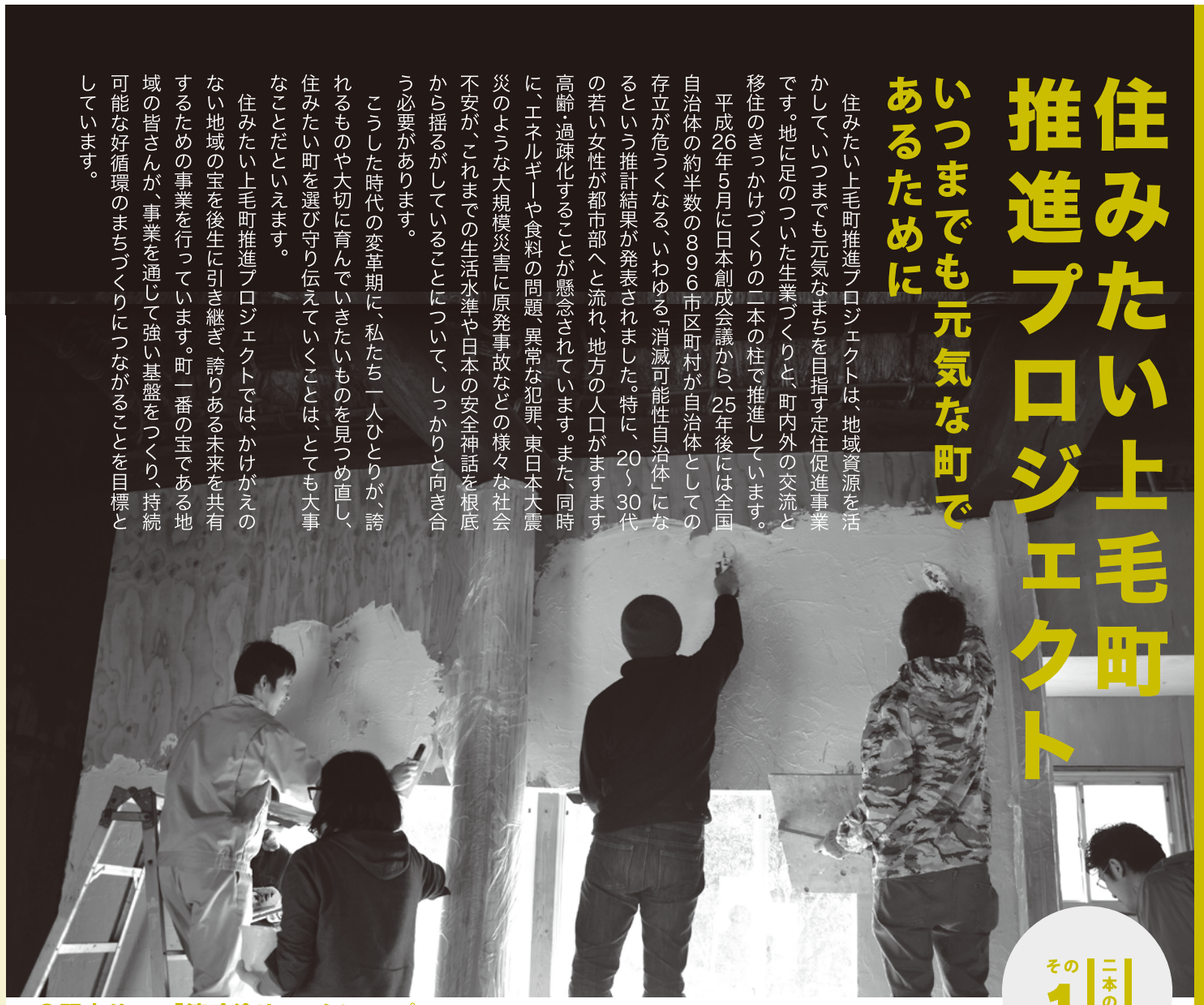
いつまでも元気な町であるために

住みたい上毛町推進プロジェクトは、地域資源を活かして、いつまでも元気なまちを目指す定住促進事業です。地に足のついた生業づくりと、町内外の交流と移住のきっかけづくりの二本の柱で推進しています。

平成26年5月に日本創成会議から、25年後には全国自治体の約半数の896市区町村が自治体としての存立が危うくなる、いわゆる「消滅可能性自治体」になるという推計結果が発表されました。特に、20～30代の若い女性が都市部へと流れ、地方の人口がますます高齢・過疎化することが懸念されています。また、同時に、エネルギーや食料の問題、異常な犯罪、東日本大震災のような大規模災害に原発事故などの様々な社会不安が、これまでの生活水準や日本の安全神話を根底から揺るがしていることについて、しっかりと向き合う必要があります。

こうした時代の変革期に、私たち一人ひとりが、誇れるものや大切に育んでいきたいものを見つめ直し、住みたい町を選び守り伝えていくことは、とても大事なことだといえます。

住みたい上毛町推進プロジェクトでは、かけがえのない地域の宝を後生に引き継ぎ、誇りある未来を共有するための事業を行っています。町一番の宝である地域の皆さんが、事業を通じて強い基盤をつくり、持続可能な好循環のまちづくりにつながることを目標としています。



●研究サロン「漆喰塗りワークショップ」

二本の柱 その1 地域資源を活用したブランドづくり「こうげのシゴト」

こうげのシゴトは、個性を活かした上毛町らしい生業を考え、地域ブランドと雇用をつくる研修事業です。特産品や観光商品をつくることにより、地域の活性化を図っています。

地域に雇用をつくるということは、地域産業の担い手をつくることに通じています。事業者も個人も、自らが誇れる商品を持ち、消費者に届けていくことができれば、その価値が対価を生み、生業となります。情報発信やデザインの基礎など、仕事の基本を学ぶ連続講座をはじめ、地域資源を題材に商品開発を学ぶことができるテーマ別の研究会を開催してきました(平成24年度～)。

特に、平成25年度から崇城大学薬学部の村上教授を講師に迎え、野草を活用した商品開発を行っています。人の営みによる文化が息づく里山を歩いてみると、足元には実に多彩な野草が息づいていることに気づかされます。ユキノシタ、イノコヅチ、ハコベ、オオバコ、ノビル、ヨモギなど、上毛町の里山は野草の宝庫です。古くから四季折々の野草が食として、あるいは、薬として利用されてきました。近年、野草の薬効が注目されるようになっており、野草を求める人が増えています。

さらに、野草は新しい農産物としての可能性も秘めており、農地に植えることで耕作放棄地や遊休農地の解消にもつながります。今後は、野草を摘む人・栽培する人・加工する人・包装する人・販売する人それぞれが役割分担し、町全体で魅力的な野草商品を生み出したり、観光客に野草体験を提供するなど、里山の生業として続いていくことが期待されています。

●こうげのシゴトで生まれた商品など

野草弁当

ピザ釜

野草のカメぱん

川底柿カレー

二本の柱 その2 田舎暮らし研究村構想「みらいのシカケ」

みらいのシカケは、まちづくりに対する意欲と行動力を併せ持った人材を招き入れ、地域の皆さんと一緒に町の魅力づくりや課題解決を行いながら、これからの田舎暮らしを考え実践する構想です(平成25年度～)。

少子高齢化から生じる様々な地域の課題に対して、全国各地で能動的に活動している人たちのニーズを適合させることで、町にふさわしいアイデアが次々に集まり実施されるようになります。例えば、農林業の応援や担い手の育成、商売繁盛や新しい仕事づくり、空き家の利活用など、これらは全て賑わい創出の源となります。地域内外の人材の力を結集し横断的な活動を広げていきます。

実施中の主な事業

住みたい町のシンボル「田舎暮らし研究交流サロン」

都市との交流が盛んで、素晴らしい景観を有する東上有田地区に、古民家を活用した集会所「田舎暮らし研究交流サロン(＝研究サロン)」を開設しました。

研究サロンは、交流・移住・定住促進のためのシンボルであり、これから数十年先を見据えた暮らし方や働き方を皆で一緒に考える場所として、広く公開しています。

町外からの移住希望者や交流体験参加者などに対しては、研究サロンに常駐する地域おこし協力隊員が町内各所へ案内しています。また、様々な専門家が集まる場所として、定期的に研修会やイベントも開催しています。研究サロンの設置は、古民家改修の実践型教育プログラムとして、公募で集まった学生と地域住民が設計から施工を担当しました。

平成26年春にオープンし、これまでに延べ600人が交流や相談、視察などの目的で訪れています。

新しい暮らしと働き方の検証「ワーキングステイ」

約1カ月間、上毛町で暮らしの体験ができる移住体験プログラムです。住む場所を限定されず、かつ、まちづくりや地域貢献に意識が高い方を対象としており、特に継続的に町づくりへの参加が可能な方を選考しています。平成24年度に始まり、これまでに体験参加した10組全員が、体験終了後も繰り返し町を訪れるほどのファンになっています。

居住体験の物件については、過疎化が進む山間の集落に用意しました。地域行事などにも積極的な参加を促すことで、体験参加者だけでなく、受け入れている地域の皆さんの意見等も参考にすることができます。皆さんからのご意見や提案などは、よりよい制度づくりに役立てています。

全国からまちづくり人材を集める「情報発信サイト」

構想の理念や事業の進捗などをしっかりと伝え、地域に求められる人材を町外から招き入れるために、専用のサイトを作成して情報発信を行っています。閲覧者が増えており、ワーキングステイ募集時には、全国1万人を超える方にサイトを見ていただきました。

グッドデザイン賞を受賞

GOOD DESIGN

住みたい上毛町推進プロジェクトは、まちづくりの手法が評価され、日本デザイン振興会のグッドデザイン賞を受賞しました(平成26年10月)。
審査員からは、美しい里山の野草など町の潜在的魅力を活かした新たな仕事づくりや定住促進のための仕組みづくり、空間や視覚的要素の質の高さが評価されました。そして、「小さくも自信を持ち、持続するまちづくりの可能性を感じさせる」という講評をいただきました。授与された「Gマーク」は、今後の広報活動に役立てていきます。

●問い合わせ先　企画情報課　TEL 72-3111(内線122)

※2月14日(土)に、「上毛ブランドの成果発表会」を開催します。
詳しくは、9ページをご覧ください。